

地 域 経 済 動 向

令和2年9月7日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

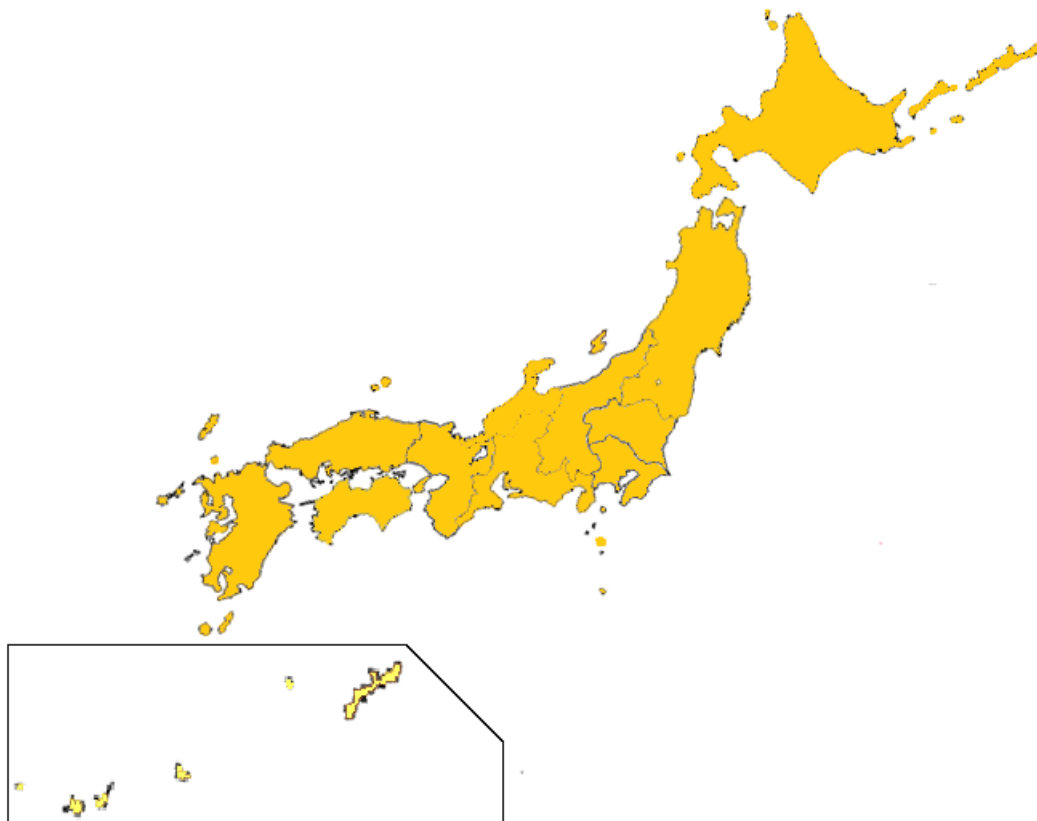
- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 甲信越
 - (6) 東海
 - (7) 北陸
 - (8) 近畿
 - (9) 中国
 - (10) 四国
 - (11) 九州
 - (12) 沖縄
 - (13) 景気ウォッチャー調査（令和2年7月調査）
景気判断理由の概要
- 4 主要指標
- 5 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・東北地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・北関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・南関東地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・甲信越地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・東海地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・北陸地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・近畿地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・中国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・四国地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・九州地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・沖縄地域は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる。



・新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる
 ー 北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州

・新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあり、足下では持ち直しの動きに弱さがみられる
 ー 沖縄

(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	甲信越	東海
景況判断	5月 (前回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある
	9月 (今回)	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる
		↑	↑	↑	↑	↑	↑
鉱工業生産 (沖縄は観光)	5月	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
	9月	一部に持ち直しの動きがみられる	下げ止まりつつある	一部に持ち直しの動きがみられる	一部に持ち直しの動きがみられる	一部に持ち直しの動きがみられる	一部に持ち直しの動きがみられる
		↑	↑	↑	↑	↑	↑
個人消費	5月	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
	9月	このところ持ち直している	このところ持ち直している	このところ持ち直している	このところ持ち直している	このところ持ち直している	このところ持ち直している
		↑	↑	↑	↑	↑	↑
雇用情勢	5月	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している
	9月	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっている	感染症の影響により、弱い動きとなっている
		→	→	→	→	→	→

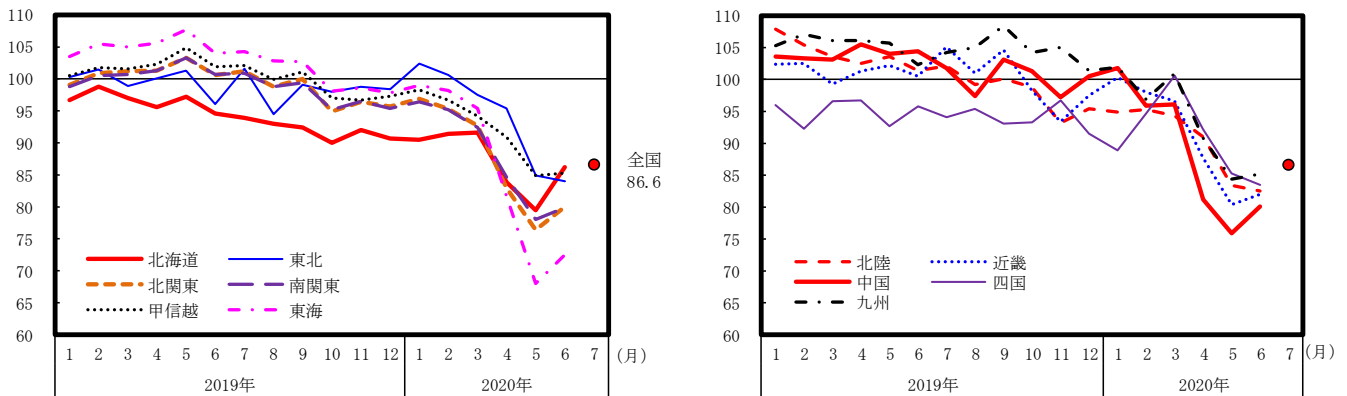
(注) ↑は上方に判断を変更、→は変更なし、↓は下方に判断を変更。

2 分野別の動き

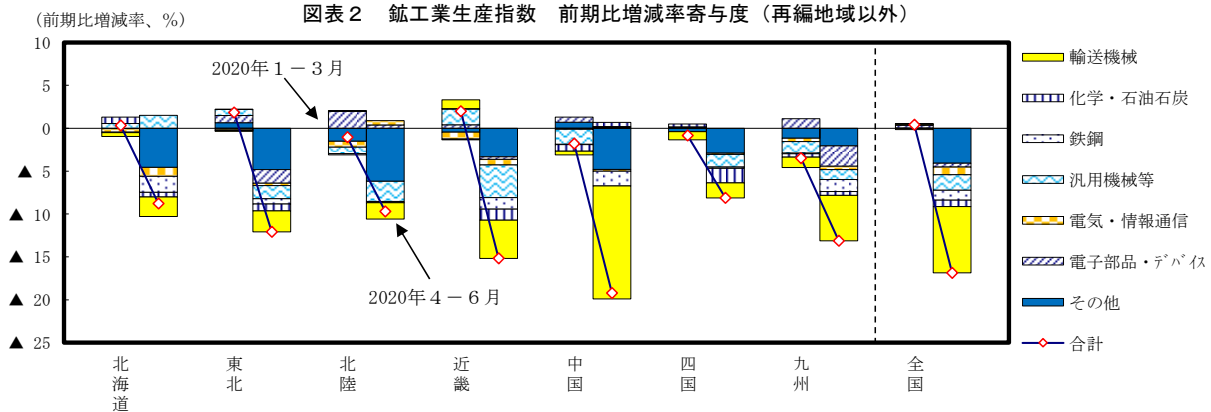
<生産>北海道、北関東、南関東、甲信越、東海、近畿、中国、九州は一部に持ち直しの動きがみられる。東北、北陸、四国は、下げ止まりつつある。

- 鉱工業生産(季節調整値)について、2020年4-6月期の動きをみると、東海(前期比▲24.1)、中国(同▲19.2)、北関東(同▲16.0)等全ての地域でマイナスとなった。輸送機械(乗用車、自動車用部品)の減少が低下に寄与した地域がみられた(図表1~3)。
- 月次では、6月は、北関東、南関東、東海、中国、九州等は、輸送機械の上昇が寄与し、プラスに転じた。東北、北陸、四国は、マイナス幅が減少している(図表1、4)。
- 7月下旬から沖縄の宿泊施設稼働率は低下傾向にある(図表5)。

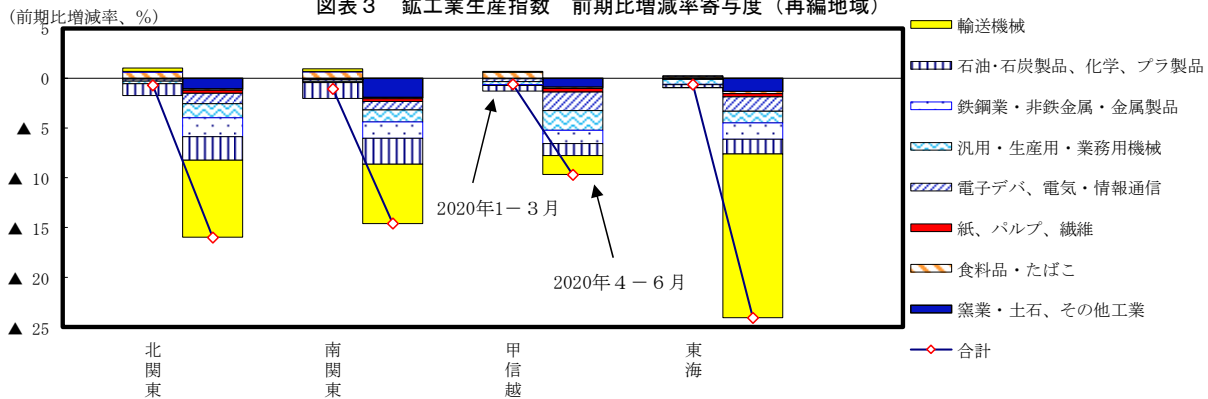
図表1 鉱工業生産指数(季節調整値)の推移



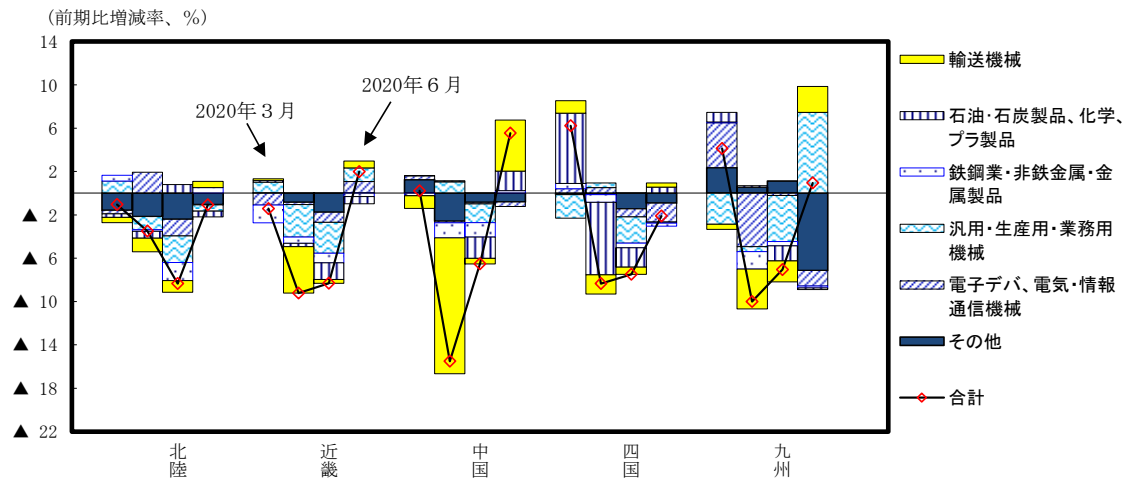
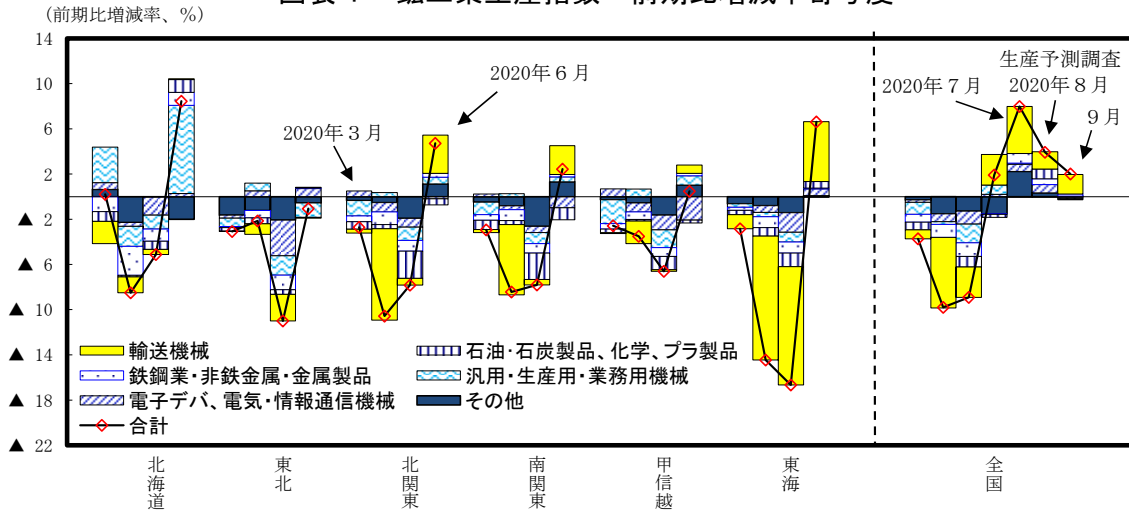
図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度(再編地域以外)



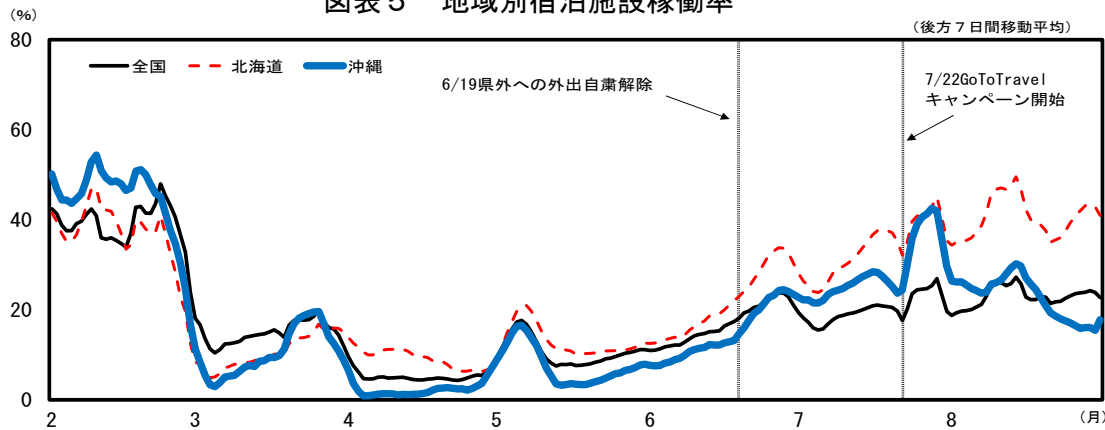
図表3 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度(再編地域)



図表4 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度



図表5 地域別宿泊施設稼働率



(備考) 図表1、2、3：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。基準年は2015年。季節調整値。

北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局、東海は関東経済産業局、中部経済産業局の「鉱工業指数の動向」により内閣府にて算出。

図表1：全国は7月の値。その他地域は6月の値。

図表2：全国、東北、北陸、近畿の「汎用機械等」は生産用機械、汎用・業務用機械を足したもの。北海道の「汎用機械等」は「一般機械」。全国、近畿、中国の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したもの。全国、東北の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したもの。

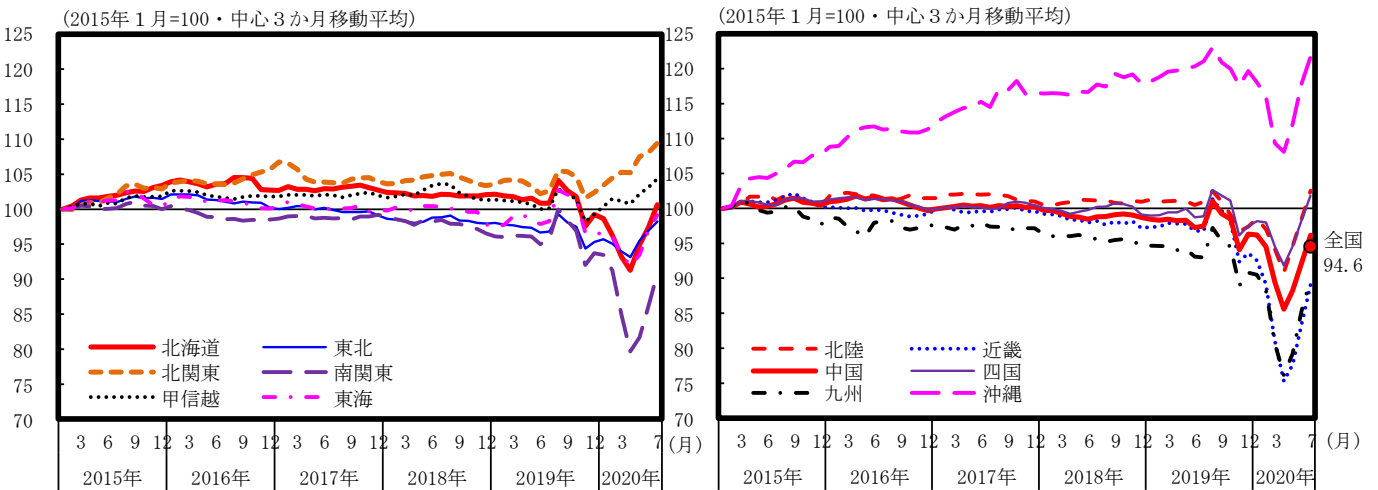
図表4：「鉄鋼業・非鉄金属・金属製品」について、全国、東北、近畿、九州は鉄鋼・非鉄金属、金属製品を足したもの。北海道、北陸、中国、四国は鉄鋼、非鉄金属、金属製品を足したもの。「電子デバ、電気・情報通信機械」について、全国、北陸、近畿、中国、九州は電気・情報通信機械、電子部品・デバイスを足したもの。北海道、四国は電気機械の値。東北は、電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイスを足したもの。「汎用・生産用・業務用機械」について、全国、東北、北陸、近畿は生産用機械と汎用・業務用機械を足したもの。北海道は一般機械の値。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」について、全国、近畿、中国は化学、石油・石炭製品、プラスチック製品を足したもの。北海道、東北、四国、九州は化学・石油石炭製品、プラスチック製品を足したもの。北陸は化学、プラスチック製品を足したもの。

図表5：公益財団法人九州経済調査協会「DATASALAD」により作成。8月31日までのデータを使用。

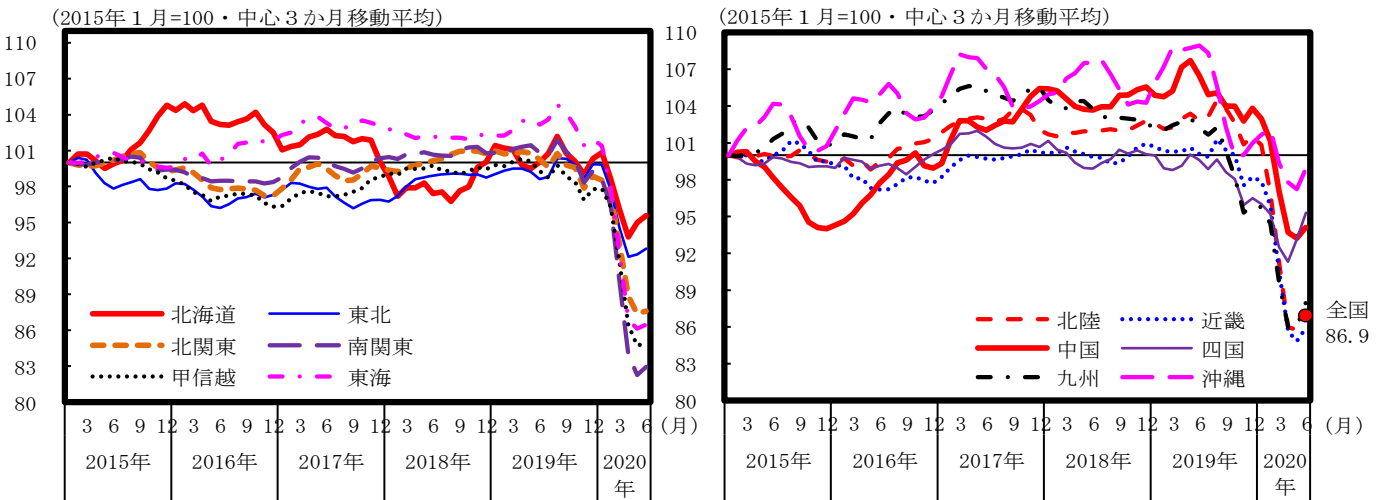
＜消費＞個人消費はこのところ持ち直している。

- 消費について、2020年4－6月期の百貨店・スーパー販売額（実質・季節調整値）の動きを見ると、北関東（前期比2.9）、甲信越（同0.7）等で全国（同▲7.2）を上回る一方、近畿（同▲12.9）、南関東（同▲10.5）等は下回った（図表1）。
- 地域別消費総合指数（実質・季節調整値）においては、地域でばらつきがみられる（図表2）。
- カード支出に基づく消費動向は、緊急事態宣言下の4月を底に上向き基調（図表3）。
- 乗用車の新規登録・届出台数は、全地域で5月を底に前年比のマイナス幅が縮小している（図表4）。

図表1 百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の推移



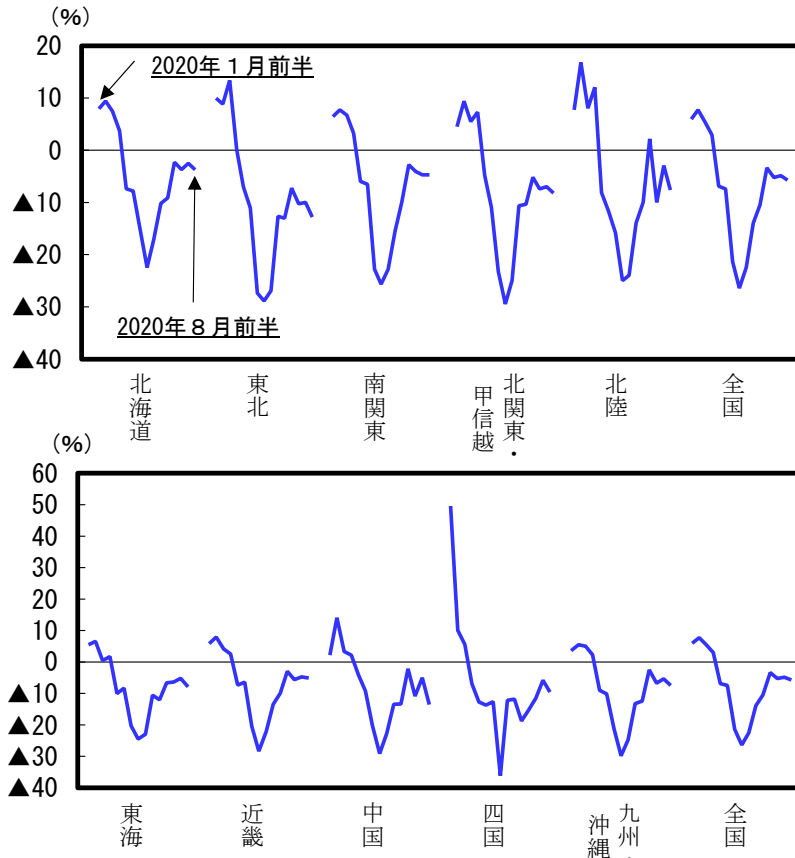
図表2 地域別消費総合指数(実質・季節調整値)の推移



(備考) 図表1：経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。
 北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在地別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は速報値、2か月平均。

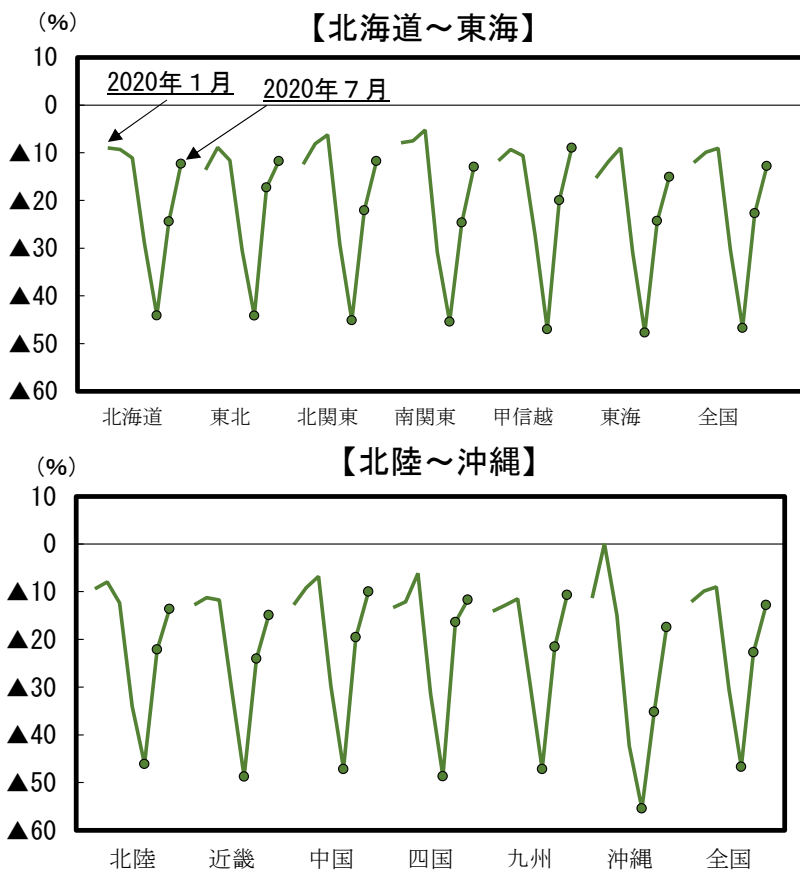
図表2：内閣府「地域別支出総合指数（RDEI）」により作成。季節調整値。

図表3 カード支出に基づく消費動向（半月次、前年比）



(備考) 株式会社ナウキャスト、株式会社ジェーシービー「JCB消費NOW」により作成。渡辺努「クレジットカード支出金額の『一人当たり支出金額』と『支出者数』への分解」(2020年4月)の参考系列。2月後半は、閏年効果を除くため、公表値(前年比)から7.1%pt(=1/14)を控除。

図表4 乗用車新規登録・届出台数（月次、前年比）

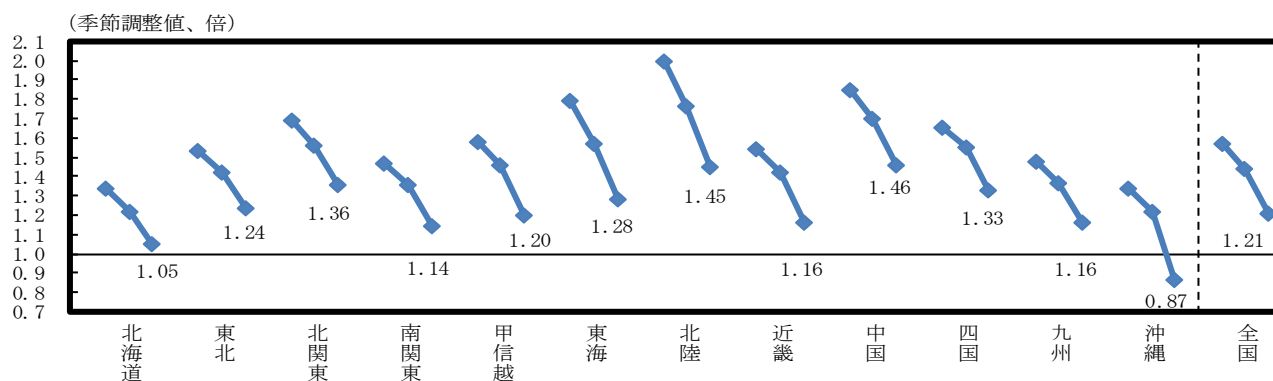


(備考) (社) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」の登録ナンバーベース及び(社) 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車日報累計表」により作成。

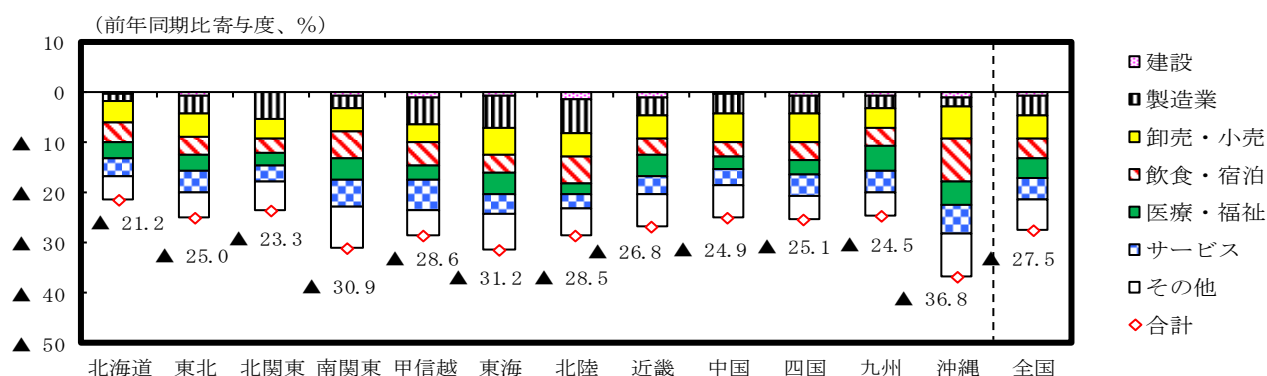
＜雇用＞北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州は感染症の影響により、弱い動きとなっている。沖縄は感染症の影響により、一段と弱い動きとなっている。

- 雇用情勢について、2020年4-6月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、沖縄（1.22→0.87）、北陸（1.76→1.45）、東海（1.57→1.28）をはじめ、全地域で低下（図表1）。
- 新規求人数について、2020年4-6月期の動きをみると、全ての地域で減少。地域別の業種別寄与度をみると、製造業、飲食・宿泊業等、全ての業種が減少（図表2）。
- 失業率をみると、北陸（同▲0.1）で低下、北関東、中国で横ばい、北海道（同0.8）、東北（同0.6）等で上昇（図表3）。
- 日次の有効求人件数は、6月にかけて全地域で低下し、7月、8月は全地域で上昇しているものの、前年に比べると低い水準（図表4）。

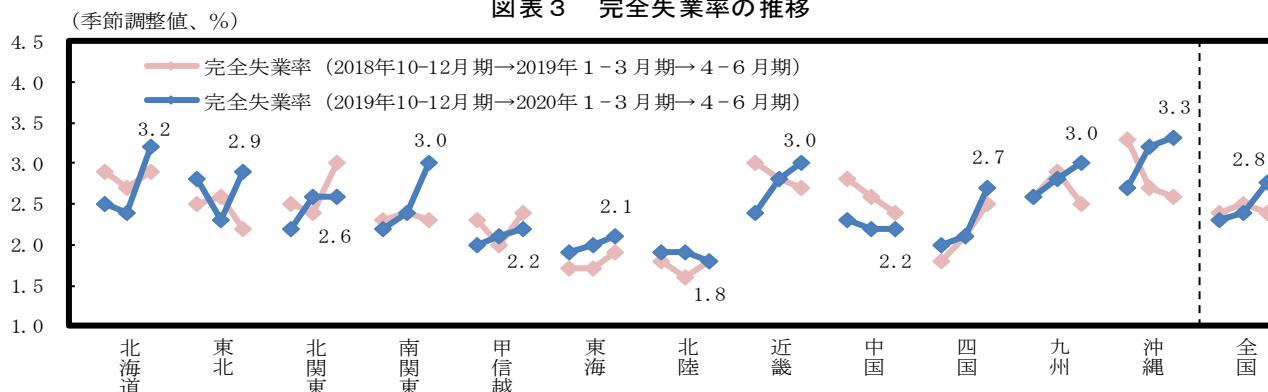
図表1 有効求人倍率（就業地別）（2019年10-12月期→2020年1-3月期→4-6月期）



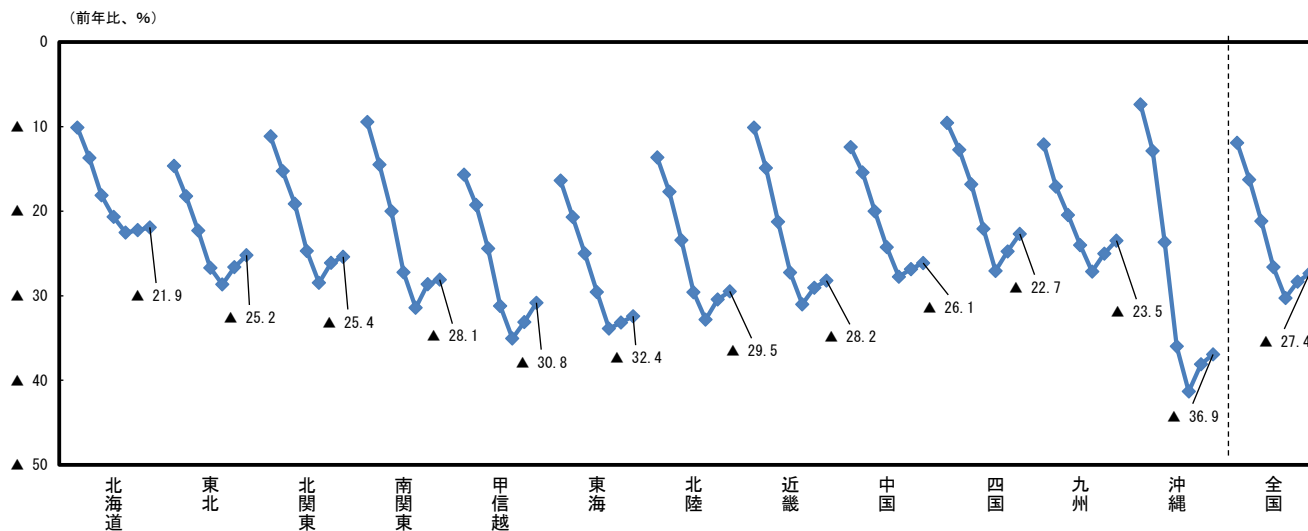
図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2020年4-6月期）



図表3 完全失業率の推移



図表4 日次有効求人件数の推移（2020年2～8月）



(備考) 図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

図表2：厚生労働省提供データにより作成（受理地別）。

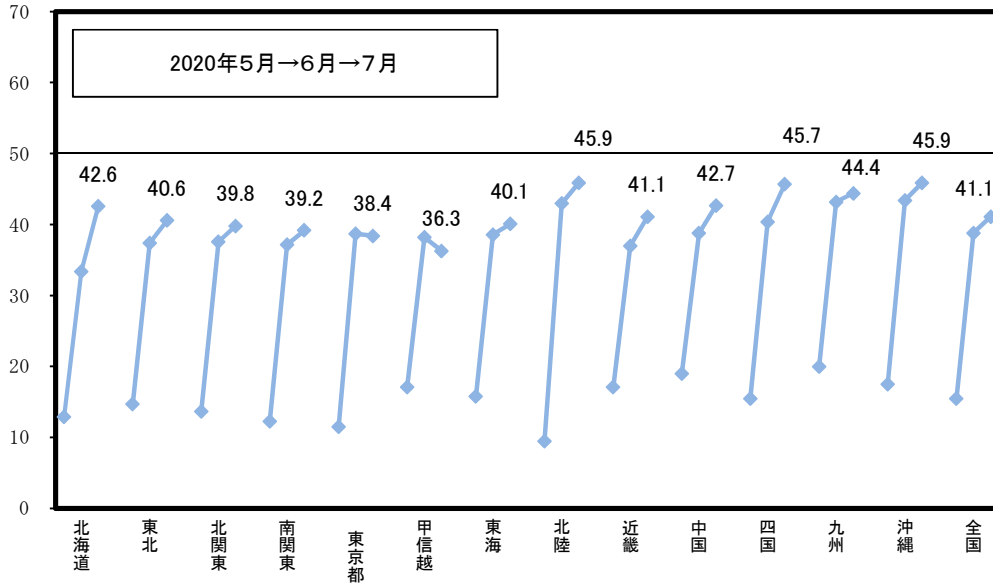
図表3：総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。季節調整値。北関東、甲信越、北陸は、「労働力調査」の都道府県別モデル推計から算出した労働力人口、完全失業者の県別シェアを同調査公表値に乘じることで県別の人数を計算し、内閣府にて作成。甲信越、北陸、中国、九州は内閣府で季節調整。全国、沖縄の季節調整値は、内閣府にて月次値を四半期平均化。北関東、四国は四半期系列に季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

図表4：厚生労働省ホームページより集計し作成。2020年2月は1～3日のデータが欠損しているため、4日以降の公表値。

＜足下の動き：景気ウォッチャー調査（令和2年7月調査）各地域の動向＞

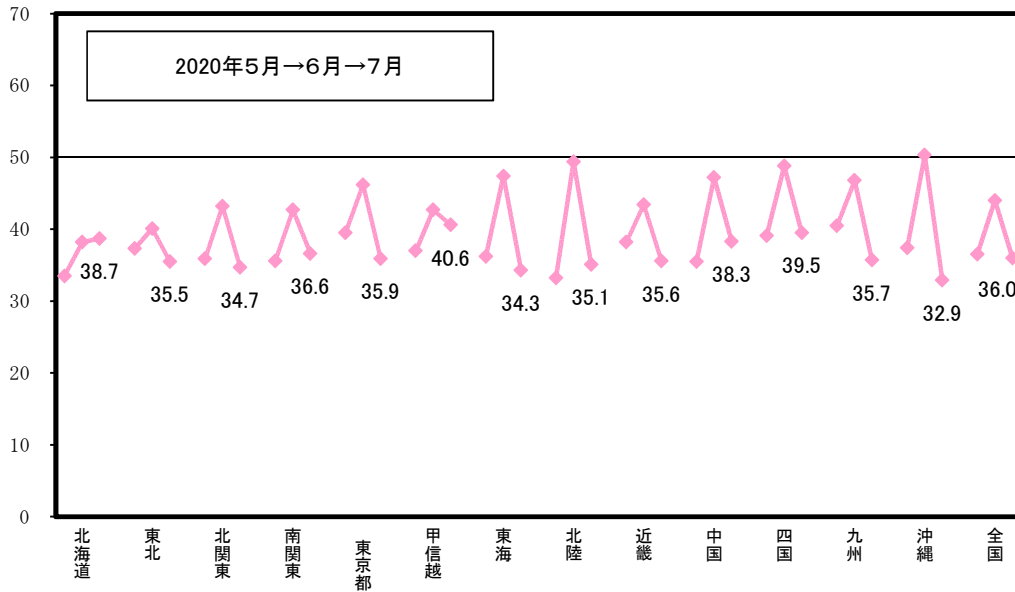
地域別DIの推移（現状）

（季節調整値）



地域別DIの推移（先行き）

（季節調整値）



（備考）内閣府「景気ウォッチャー調査」（令和2年7月調査、調査期間：7月25日～31日）を基に作成。

○ 景気の現状判断D I（季節調整値）

前月と比較しての現状判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、11 地域で上昇、1 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは北海道（9.2 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは甲信越（1.9 ポイント低下）であった。

景気の現状判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2020						
	月	2	3	4	5	6	7	(前月差)
全国		27.4	14.2	7.9	15.5	38.8	41.1	(2.3)
北海道		27.3	15.7	8.3	12.9	33.4	42.6	(9.2)
東北		31.1	15.9	9.7	14.7	37.4	40.6	(3.2)
関東		27.9	13.3	8.4	12.7	37.3	39.4	(2.1)
北関東		28.8	12.0	7.2	13.7	37.6	39.8	(2.2)
南関東		27.6	13.8	8.8	12.3	37.2	39.2	(2.0)
東京都		24.5	11.5	6.9	11.5	38.7	38.4	(-0.3)
甲信越		27.5	12.1	7.5	17.1	38.2	36.3	(-1.9)
東海		26.2	15.3	9.0	15.8	38.6	40.1	(1.5)
北陸		28.7	14.7	5.5	9.5	43.0	45.9	(2.9)
近畿		25.1	12.7	5.8	17.1	37.0	41.1	(4.1)
中国		29.5	15.2	7.3	19.0	38.8	42.7	(3.9)
四国		29.4	13.8	6.9	15.5	40.4	45.7	(5.3)
九州		26.6	13.6	7.0	20.0	43.2	44.4	(1.2)
沖縄		28.8	14.3	10.4	17.5	43.4	45.9	(2.5)

○ 景気の先行き判断D I（季節調整値）

前月と比較しての先行き判断D I（各分野計）は、全国 12 地域中、1 地域で上昇、11 地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは北海道（0.5 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは沖縄（17.4 ポイント低下）であった。

景気の先行き判断D I（各分野計）（季節調整値）

(D I)	年	2020						
	月	2	3	4	5	6	7	(前月差)
全国		24.6	18.8	16.6	36.5	44.0	36.0	(-8.0)
北海道		17.9	21.2	14.9	33.5	38.2	38.7	(0.5)
東北		27.3	19.9	18.6	37.3	40.1	35.5	(-4.6)
関東		25.3	18.6	16.1	35.7	42.9	36.1	(-6.8)
北関東		24.6	16.5	12.6	35.9	43.2	34.7	(-8.5)
南関東		25.5	19.5	17.4	35.6	42.7	36.6	(-6.1)
東京都		26.2	23.3	21.5	39.5	46.2	35.9	(-10.3)
甲信越		23.2	18.9	13.5	37.0	42.7	40.6	(-2.1)
東海		25.8	19.3	17.3	36.2	47.4	34.3	(-13.1)
北陸		16.3	13.3	14.1	33.2	49.4	35.1	(-14.3)
近畿		25.1	18.6	18.6	38.2	43.4	35.6	(-7.8)
中国		24.3	15.6	14.9	35.5	47.2	38.3	(-8.9)
四国		28.3	22.0	14.9	39.1	48.8	39.5	(-9.3)
九州		26.2	19.5	18.5	40.5	46.8	35.7	(-11.1)
沖縄		27.7	20.6	23.3	37.4	50.3	32.9	(-17.4)